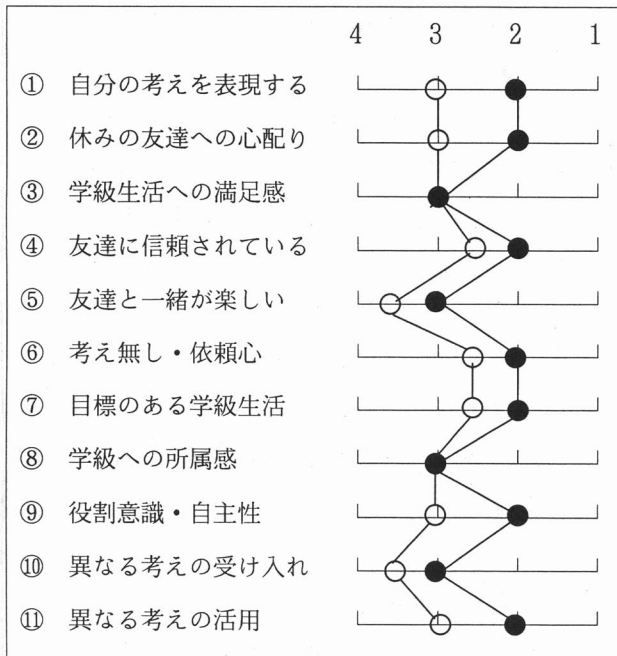


(資料17) 教師の観察による

学級生活に関するアンケートの比較

●—●事前, ○—○事後



③ 日常生活から

児童同士がそれぞれのよさに目を向け、そのことを指摘し合うことが多くなってきた。そのため、学級の友達のよいところを書いて知らせ合う活動での「思いやりの実」が増えてきた。

(2) 小学校4年Q組

また、4年Q組では、一人一人が自分なりの考えをもてるようになってきた。そのため、学級の話合い活動では、自分の意見を発表するとともに、友達の意見をよく聞き、それについての考えを話せる児童が増え、学級全員で話し合おうとする雰囲気になってきた。



(3) B男の学級 (中学校2年R組)

① 構成的グループ・エンカウンターを通して各回ごとにねらいをしっかりとつかみ、楽しい雰囲気の中で真剣に取り組んでいた。その結果、級友を肯定的に見るようになり、互いに自分らしさを出して活動するようになってきた。

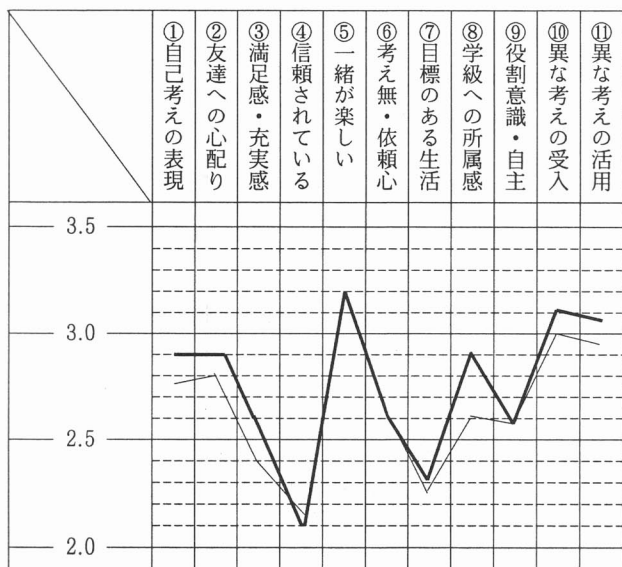
② 事前・事後のアンケート結果から

学級生活のアンケート結果を各項目ごとに学級平均を算出し、事前と事後を比較したグラフが(資料18)である。特に、①、⑧、⑩、⑪の4項目でプラスの変容が顕著である。①は自分の考えを表現することについて、⑧は学級への所属感について質問した項目であり、⑩と⑪は本年度の研究でねらった「よさや違いを受け入れること」「よさや違いを生かして活動すること」を質問した項目である。

このことから、自分の考えや意見を発表できるようになり、学級への関心が高まってきたことがわかる。さらに、それぞれの生徒のよさや違いを受け入れ、それを生かして活動するようになってきている様子がうかがえる。

(資料18) 事前・事後の学級平均の比較

(中学校R組: — 事前, — 事後)



学級平均は、「とても」を4点、「まあまあ」を3点、「あまり」を2点、「ぜんぜん」を1点として合計し、生徒数で割ったものである。

③ 日常生活から

互いの知らない面を出しても、周りの生徒がそれ